



## 東海ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時： [1日目] 平成30年12月1日（土）13：00 ～ 17：15  
[2日目] 平成30年12月2日（日） 9：00 ～ 12：15

会 場：長良川スポーツプラザ

内 容：テーマ：これからのクラブ ―継続と発展― を視点に集い学ぼう

[1日目] 1. 共通プログラム <シンポジウム>

「障がい者スポーツと総合型地域スポーツクラブとの関わりを考える」

2. 独自プログラム<事例発表>

「ユニークな活動、特色のある活動をしているクラブ」

[2日目] 1. 独自プログラム <事例発表>

「ステークホルダーとの関係を築くには」

2. 独自プログラム<講演>

「提案する力 ～事業計画書の作り方～」

参加者：108人

### 【概要】

本年度の東海ブロックは、岐阜県を会場として12月1日～2日の2日間の日程で開催された。総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC全国ネットワーク）が設定した共通プログラムである障がい者スポーツにおいては、シンポジウムを開催。そして、参加者のクラブ運営にヒントや情報を提供するためのプログラムとしては、特色あるクラブの事例紹介や、クラブとステークホルダーとの関係づくりについての提案などがなされた。さらには、今後のクラブが様々な外部組織との交渉力を高めていくための学習機会として、事業計画書の作り方に関する講演を行った。

### 【内容】

#### 1. 共通プログラム<シンポジウム>

##### 「障がい者スポーツと総合型地域スポーツクラブとの関わりを考える」

クラブは決して障がい者を避けているのではなく、受け入れる情熱や意欲は持っている。しかしながら、障がい者に対する細かな配慮に関するノウハウや、障がい者を引き込むためのアプローチのすべを持ち合わせていない。そこで、このことへの答えを出すことを主な目標に掲げ、特別支援学校の教員・障がい者スポーツ協会の役員・障がい者プログラムを先駆的に実施するクラブのマネジャーにパネリストとして提案をいただき、討論を行った。

結論としてクラブは、今回登壇いただいたパネリストやその所属先に、気軽に相談していく行動力を持つことが肝要であることを全体で確認した。



## 2. 独自プログラム＜事例発表＞

### 「ユニークな活動、特色のある活動をしているクラブ」

各県を代表して、ユニークなプログラムや活動を行っているクラブを選抜し、その内容について発表をしてもらった。出席したクラブ関係者からは、自クラブの参考にするべく活発な質問が寄せられ、盛況であった。



## 4. 独自プログラム＜事例発表＞

### 「ステークホルダーとの関係を築くには」

総合型地域スポーツクラブが、周囲のステークホルダーと良好な関係を築きながら発展してゆくことを想定し、先駆的にステークホルダーとのネットワークを検討している2クラブに提案をしてもらった。

ぎふ瑞穂スポーツガーデンの岸田氏からは、行政や周辺の企業との関係構築や協働事業の展開に向けて、現状の活動状況だけにとどまらず今後の展望も含めての提案がされた。



朝日丘スポーツクラブの三田氏からは、市内に存在する11クラブの協働によるネットワーク構築と事業化に関する展望が語られた。

自クラブの運営に手一杯で周囲に関心を向けられていないクラブも含めて、参加者に良い刺激が与えられた。

## 5. 独自プログラム＜講演＞

### 「提案する力 ～事業計画書の作り方～」

クラブが安定的に継続してゆくために、行政やその他から助成を受けたり事業を受託したりすることは重要な要素のひとつである。これらにエントリーすることを想定した場合、事業計画書の内容次第で相手組織が受けるクラブの印象がずいぶんと変わってしまう。このような課題に対して、NPO法人の中間支援組織である可児NPOセンターから山口氏を招き、伝わりやすい事業計画書の作り方について講演をいただいた。



## 【まとめ】

クラブネットワークアクションの実行委員として、より多くの参加者を集めたいという思惑と、一方で義理やお付き合いでまで出席してもらいたくない気持ちの葛藤に毎年悩まされています。例年4県のブロックの比較対象として四国の様子と見比べ、遜色がなければ良しと胸をなで下ろしていましたが、今年は久しぶりにスタッフあわせて100名を越える参加者に恵まれ、企画する側として久々の手応えを感じました。

総合型地域スポーツクラブの育成推進が始まってからすでに20年の歳月が経過しています。皆がクラブを立ち上げ安定した経営を行うという方向を向いていた時期は過ぎ、各クラブが多種多様な課題に直面しています。そういった意味からもすべてのクラブの欲しい情報を提供するには無理があると感じます。そんな中でも変わらないものは、「1年に一度県を越えて同士に会い語れる機会」と思ったださる継続参加者の皆さんの笑顔です。私たち実行委員はそれにずいぶんと励まされてきました。

盛況であったといっても、参加する県にかなりの格差があるのも現状です。より多くのクラブ関係者が気軽に集え、来た甲斐があったと言ってもらえるような会として、今後も継続に向けて努力していこうと思います。



※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

